

持続型農業生産技術分野 この一年

持続型農業生産技術分野長 平田統一

持続型農業生産技術分野では前分野長の佐川 了先生がFSCセンター長に就任されたことに伴い、平成25年度から平田が新分野長として取りまとめを行うことになりました。ご支援を賜りますようお願いいたします。近年は毎年のように異常な気象現象が発生し、もはや異常（常と異なる）というより常に激しい気象変化が起こる前提で生産活動や生産技術開発にあたらなければならない時代となって参りました。平成25年度も前号のFSニュースで詳細を報じたように、8月9日に雫石町を未曾有の豪雨が襲い、御明神フィールドステーションに至る唯一の道路にかかる赤沢川の河岸を大きく抉り橋は崩壊してしまいました。折しも御明神牧場で宿泊実習に参加していた動物科学課程3年次の学生33名や教職員が一時孤立状態となりました。滝沢農場では10月16日の台風26号により、収穫目前の「紅玉」をはじめとして「ふじ」「はるか」の落果被害が約2割にも及びました。このように、春の低温、乾燥、夏の猛暑、豪雨、秋の長雨、台風襲来と、牙をむく自然環境の中でいかに生産を上げていくかの戦いという農業の原点に還るような1年の中、当分野では着実に実習・研究・生産活動を行って参りました。

たとえば滝沢農場では本学農学部学生だけでなく、教育学部附属特別支援学校、盛岡大学、岩手県立みたけ支援学校など、学内外の学生、生徒を対象に実習を行いました。御明神牧場では、技術職員の桃田優子さんが科学研究補助金を獲得し、その研究結果を、「黒毛和種子牛の離乳ならびに群飼ストレスとその後の発育」と題して家畜管理学会で発表するなど、技術職員による研究活動も活発に行われています。生産活動について、滝沢農場では8月と12月に実施した「森の駅市場」は大変盛況でした。御明神牧場では、10ヶ月齢の子牛が市場で1頭¥656,250の市場最高値を付けるなど、職員の日頃の活動が評価されています。岩手大学では改組論議が喧しくなっており、FSCとしてもどのようなミッションの下に、どのような施設・人員で、何を行っていくのか模索を始める年となりました。より活用しやすい施設となりますよう、皆様方からの応援、叱咤激励をよろしくお願いいたします。



台風によるリンゴ‘紅玉’の落果

循環型森林管理技術分野 この一年

循環型森林管理技術分野長 澤口勇雄

循環型森林技術分野は演習林（御明神演習林（1,040ha）滝沢演習林（281ha））をフィールドに教育、研究、エクステンション活動を進めています。実習教育は森林コースを中心に12科目15百人余の利用がありました。この中では、農学部1年次全員必修の総合フィールド科学実習や鹿児島大学農学部学生を迎えての第35回温帯林概論（4泊5日）などが特筆されます。遙か2,000km彼方からの鹿児島大学生の毎年の来演は嬉しい限りです。また、卒論・修論研究に励み成長する学生の姿は、研究フィールドとして、多様な演習林維持への使命感を感じさせます。演習林の存在意義は一義的に学生教育の場です。しかし、最近は社会人教育への貢献、それも一般カルチャーではなく森林・林業技術者や現場技能者などの専門家に対する専門的知識・技術教育の場としての役割が大きくなっています。演習林が誇る技術を含む持てる資源の社会への積極的開放です。ここでは、通算10回目となった森林環境教育リーダーの養成研修（4泊5日）や同様に37回を数えたフォレストエンジニアリングエクステンションで専門技術者が演習林で学びました。児童・社会人対象のセミナーも120回越えを果たし、こちらのほうも大忙しの1年でした。一方、日最大時間降雨量78mm

を記録した未曾有の豪雨が8月9日に御明神演習林を襲いました。これによって、御明神総合施設における通勤生活道の一ノ渡橋が損壊し通行不能になるとともに、路網施設を中心に2億円を超える大被害が演習林で発生しました。その後、大学をあげての懸命の努力により、暮れ近くに文科省による災害査定を受けて、26年度早々から順次、復旧事業を開始することで進んでいます。教育研究、事業実行に大いに支障が出ており、難渋している状況に変わりありません。また、滝沢演習林では松食い虫被害発生が岩手県により確認されるとともに、御明神演習林近郊でも被害が確認されましたので、演習林をあげて松食い虫被害対策が本格化した年になりました。この問題は、今後の演習林経営や森林施業に大きな影響が懸念されます。最後に、1913年（大正2年）開設の滝沢演習林が今年100周年を迎え、滝沢村村長や学長を始め多くのご来賓をお迎えして盛大に祝うことができたことなど、お目出たいことも多くあった1年でした。



滝沢演習林開設百周年記念植樹

齋藤誠氏(技術専門職員;演習林) 森林管理技術賞受賞

循環型森林管理技術分野 農学系第二技術室
佐々木 一也

平成25年9月19日、鳥取大学で開催された平成25年度全国大学演習林協議会総会において、齋藤誠技術専門職員に森林管理技術賞(特別功労賞)が授与されました。この賞は、同協議会が、長きにわたり演習林等の教育・研究基盤の整備を通じてその発展に多大な貢献をした者に授与するものです。氏の受賞理由は「都市近郊演習林の適切な維持管理及び卓越した技術の指導を通じた人材育成及び社会貢献」となっていますが、少し詳しく補足して紹介します。氏は昭和56年から滝沢演習林の業務に携わり、これまで32年の長きにわたり、演習林フィールドの維持管理を行ってきました。ご承知のように、滝沢演習林は盛岡市から北に約10kmと近い位置にあり、里山の雰囲気をもった都市近郊林です。手入れが行き届き、原始的な森林はみられず、アカマツ、コナラ、クリ等が優先する二次林が広がっています。中には樹齢170年に近いアカマツ林があり、南部アカマツを代表する美林となっています。その一部は、平成19年に文化庁から「ふるさと文化財の森」の設定を受けました。これは「我が国の歴史と文化を伝える文化財建造物の保護についての国民の理解を増進し、修理のための資材の安定確保を図る」ことが目的となっています。また、滝沢演習林では、都市近郊林の利を活かして、フィールドセミナーを積極的に実施してきました。一般市民や小中学生を主な対象としてすでに120回を超え、壮挙といえます。このように、適切に管理され、開かれた演習林をつくり上げてきたのは紛れもなく技術系職員の力であり、氏は常にその先頭に立ってきました。これらの功績が称えられての受賞です。氏のこれまでのご尽力に感謝しつつ、受賞を共に喜びたいと思います。



地域への貢献の展開 (平成25年度)

職業的専門家(経営者・技術者等)を対象とするもの

- ◆第10回森林環境教育エキスパートスクールー森林・林業再生と里山との共生ー 平成25年5月20日(月)~5月24日(金)
- ◆第30回フォレストテクニカルエクステンションー循環型森林管理技術普及プログラム(9)ー 平成25年6月29日(土)
- ◆第31回フォレストテクニカルエクステンションー地域林業支援プログラム(3)ー 平成25年9月4日(水)~9月5日(木)
- ◆第32回フォレストテクニカルエクステンションー若大型作業路普及プログラム(21)ー 平成25年11月5日(火)~11月6日(水)
- ◆第33回フォレストテクニカルエクステンションー若大型作業路普及プログラム(22)ー 平成25年11月11日(月)~11月12日(火)
- ◆第34回フォレストテクニカルエクステンションー若大型作業路普及プログラム(23)ー 平成25年11月25日(月)~11月26日(火)
- ◆第35回フォレストテクニカルエクステンションー人工林施業プログラム(1)ー 平成26年1月25日(土)~1月26日(日)
- ◆第36回フォレストテクニカルエクステンションー高性能林業機械作業システムマネジメントプログラム(1)ー 平成26年1月31日(金)
- ◆第37回フォレストテクニカルエクステンションー高性能林業機械作業システムマネジメントプログラム(2)ー 平成26年2月7日(金)

一般市民・児童生徒を対象とするもの

- ◆イーハトーブの森と家づくりフォーラム 植林体験 平成25年5月12日(日)
- ◆第118回フィールドセミナーー植物観察シリーズ⑩ー 平成25年6月2日(日)
- ◆第119回フィールドセミナー(総合的学習時間における森林学習(32)) 平成25年7月11日(木)
- ◆第120回フィールドセミナー(総合的学習時間における森林学習(33)ー技術職員と学ぶ森林作業ー) 平成25年7月12日(金)
- ◆第8回哲学者 内山 節氏を迎えての「哲学の森」 平成25年8月31日(土)~9月1日(日)
- ◆牧場体験ー搾乳をしてみようー 平成25年9月28日(土)~9月29日(日)
- ◆第121回フィールドセミナーー植物観察シリーズ(16)ー 平成25年10月6日(日)
- ◆第122回フィールドセミナーー親子シリーズ(13)ー 平成25年11月17日(日)
- ◆公開講座「かんじきを履いて冬の森を歩こう」 平成26年2月16日(日)
- ◆第123回フィールドセミナーー親子シリーズ(14)ー 平成26年3月30日(日)

センター開放的事業

- ◆ブルーベリー摘み取り販売 平成25年7月24日(水)
- ◆第9回森の駅市場 平成25年8月8日(木)
- ◆第10回森の駅市場 平成25年12月6日(金)

岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター

〒020-8550 盛岡市上田3丁目18-8 TEL:019(621)6234

E-mail:fsciu@iwate-u.ac.jp http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/~fsciu/

発行責任者/寒冷フィールドサイエンス教育研究センター長 佐川 了
編集責任者/寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 山本 信次